

## 学長選考会議議事要録

1. 日 時 平成18年11月30日(木) 10:30~12:05
2. 場 所 弘前大学事務局2階 特別会議室
3. 出席者 丹野(議長), 岡井, 小田切, 佐藤, 南條, 吉田, 藁科, 小川, 須藤  
の各委員  
欠席者 石戸谷, 櫛引, 加藤の各委員  
事務局陪席 渡邊総務部長

◎ 議長から、前回会議(10月26日開催)の議事要録(案)について確認され、異議なく了承された。

### 4. 審議事項

#### 議題1 学長候補者選考規程の見直しについて

議長から、前回の会議の検討結果を踏まえて、配付資料のとおり推薦制を導入した場合の学長選考プロセスの概要(試案)をまとめた旨の発言があった後、次のような意見交換があった。

- 学内意向投票の結果は、どの程度まで公表することになるのか。
- 学内意向投票の結果の公表については、今後の検討課題である。
- 推薦制の導入は理解できるが、立候補制は導入しないのか。
- 本会議が学長候補者選考規程の制定に向けて検討していた当初から、現実的な問題として、本学の場合は立候補する者は出てこないと思われることから立候補制は導入しないことにしていた。学長選考プロセスの概要(試案)からすると、例え立候補したい者がいても推薦人を必要とすることになる。
- 被推薦者以外の者に投票される可能性はないのか。
- 今考えている推薦制の仕組みの中では、被推薦者以外に投票することはできない。
- 本会議が適任者を推薦することができる段階としては、第1次学長候補者を選考する段階にした方が良いのではないか。
- 第1次学内意向投票の後に本会議が適任者を推薦すると、後出しというように受け止められるのではないかという意見が、これまでの議論の中であった。
- 最初から、本会議が適任者を推薦した場合、例えば学外の者の場合は得票数が低いことが考えられる。そうすると第1次学長候補者に残らないことになるのではないか。
- 仮に学内からの被推薦者が1名しかいない場合、第1次学内意向投票はその1名に対して行うことになるのか。学内からの被推薦者の状況を見て本会議が適任者を推薦することになると、本会議が学内からの被推薦者に対して対抗馬としてぶつけるということになり露骨すぎるのではないか。そういう点では、最初から本会議が適任者を推薦するべきではないか。

- 学内からの被推薦者が少なかった場合、本会議が動くべきだろうと思う。しかし、本会議からの被推薦者の知名度が低く得票数が低くなる可能性もある。本来であれば被推薦者がどういう人物であるか学内に良く知ってもらった上で投票してもらうことが必要であることから、本会議からの被推薦者に対する投票は第2次学内意向投票になってしまうのではないか。
  - 第1次学内意向投票の結果は、あくまでも本会議が第1次学長候補者を選考するための参考とするものであるから、本会議からの被推薦者の得票数が低くても、本会議が必要であると認めれば第1次学長候補者にすることはできるのではないか。
  - 本会議が後出しの形で適任者を推薦した場合、学内からの被推薦者を本会議が否定していると受け取られかねないのではないか。
  - 学内の過半数の支持を得られない被推薦者を学長にするのは難しいと思うが、学内意向投票の結果、本会議からの被推薦者が学内の支持を得られず、学内からの被推薦者が過半数の支持を得て学長になった結果、大学の経営状態が悪化した場合は、学内構成員の自己責任ということになる。そういう点では本会議からの被推薦者にはできるだけチャンスを与えるべきだと思う。
  - 被推薦者がどういう人物であるのか学内に知らせる手段としては、被推薦者の推薦理由書を公表することによって可能だと思う。第1次学長候補者が学内構成員に対して抱負を表明するための演説を行うことになっているが、必ずしも学内構成員全員が聴くとは思われない。そういう点では、推薦理由書という文書で学内に周知した方が効果があるのではないか。
  - 最終的に学長候補者を選考する際には、学内の過半数以上の信任を得た候補者でなければならないと考える。そういう点で、第2次学内意向投票で得票がばらけるよりは、本会議で第1次学長候補者を2名に絞って第2次学内意向投票を行った方が良いのではないか。
  - これまでの議論を踏まえると、どの段階でも本会議が適任者を推薦できるような形にしておけば良いのではないか。
  - 本会議が適任者を推薦するケースとしては、被推薦者が少ない場合と大学が危機的な状況にある場合くらいしか考えられないのではないか。
- 引き続き、議長から、本会議が適任者を推薦する段階としては、第1次学内意向投票の前又は第2次学内意向投票の前に推薦できるというような規定の仕方にしてはどうかという提案があり、審議の結果、異議なく了承された。

続いて、議長から、学内から推薦する場合の推薦人の人数及び推薦者氏名の公表について諮られ、審議の結果、推薦人の数は10名とし、推薦人氏名は全員公表することです承された。

## 5. 次回の開催について

議長から、次回の開催時期については、来年1月の各委員の日程を調整した上で開催することとし、検討事項としては、学内意向投票の成立要件や第2次学内意向投票の結果、過半数を得た候補者がいなかった場合の選考方法（第3次学内意向投票）

票を行うのか等) について議論したい旨の発言があり, 異議なく了承された。

以 上